

核データ { 情報 } 専門部会  
                  { 評価 }

データ検索システムW.G. 第5回会合議事録

日 時 昭和44年11月27日(木) 13:40~17:30

場 所 日本原子力研究所東海研究所 V・d・G建屋29号室

出席者(五十音順)

五十嵐, 岡本, 加藤, 金森,  
川合(NAIG), 河原崎, 田中(オブザーバー), 中川,  
中嶋(法大), 西村, 更田, 吉村(船研)

配布資料 1. 作業計画零次案

議 事

配布資料にもとづいて討論が行われ、作業計画の大意が決定された。以下、議事の進行から離れて、作業計画零次案の各項目別に議事内容を記す。

・ [案1] 総合的データ収集検索システムの作成

日本の核データ・センターが持つべき器の作成は如何に着手すべきかを考慮して、先ずNEUDADAシステムを原研で使えるようにし、これに漸次手を加えていって我々の中央のシステムとしていく。

(a) NEUDADAはPL/Iで書かれているので、これをFORTRAN IVに書き直すことを来年度外注する。

(b) 書き直したNEUDADAに手を加えていく。例えば、data blockのidentificationにGIANTの流儀を取り入れ、neutron incident以外も取扱えるようにすることなどが考えられる。

(説明) NEUDADAは現在CCDNで使われており、プログラム・リストその他の資料が既に入手されている。NEUDADAにはSCISRS-I dataがcompatibleであるから、NEUDADAを基礎にしておけば、将来SCISRS-IIになった場合の変換などに問題が少ないと考えられる。多少手を加えれば、殆んど如何なる種類の情報でも入れられるような器に出来るはずであるから、これをそれぞれのW.G.で収集されあるいは作成されたデータ(evaluated dataを含む)を収容する器に使うことが出来る。

( 討論 )

- PL/I を FORTRAN IV に書直す理由は? PL/I は小型コンピュータに有利と CCDN のベルが言っていたが?
  - FACOM 230/60 には今の所 PL/I のコンパイラが用意されていない。
  - FORTRAN IV はなじみが深く修正が容易である。
  - SCISRS-II が FORTRAN IV なら modified NEUDADA も FORTRAN-IV がよいのではないか。
- NEUDADA よりも ECSIL を参考にしたらどうか。
  - 我々は CCDN との方が関係が深いことと、小型機用であるということから NEUDADA がよいと考える。
- プログラムの変換の外注費はどの位か?
  - 大ざっぱに言って数ヶ月、数 10 万円の程度であろう。
  - この点は五十嵐氏が IBM のプログラマーに当たってみることになった。
- この案のシステムの活用に関して。
  - 近い将来に CCDN からマスター・テープをもらうことは考えていない。我々の集めたデータ、作成したデータ、および CCDN から送られてきた部分的データの器として使用する。
  - そうだとすると、新たな問題についてデータ検索を行う場合は、結局のところ殆んどの場合やはり CCDN にデータ検索を request することになって、問題の器は活用されない恐れがある。
  - マスター・テープを定期的にもらうようにならないと、上記の恐れはやむを得ない。我々が収集あるいは作成したデータの消失を防ぎ、将来体制が整ったら直ちに活用出来るようにしておくことに少なくともメリットがある。
  - CCDN からくる NEUDADA の output tape は、そのまま使い易いので、これをわざわざ器にもどす必要はない。
  - この場合もとの CCDN の NEUDADA に入っていたような形でもどすのではなく、optional に送られてきた形のままで器に入れればよいであろう。
  - マスター・ファイルが入らない場合のシステムの活用については、以上のような意義を認めても、かなりの不安が残る。

( 結論 ) 以上の討論の後、この案についての意見分布は次の通りであった。

この案を実行すること	yes	no	no comment
マスター・ファイルと無関係に	7	4 *	1
マスター・ファイルとの関連において	10	0	2

\* この意見は、マスター・ファイルが入るかどうかわからないのにこの案のような書換えをやるのは反対、か或は書換えに全く反対のいずれかである。

この結果、案1を行うことに決定した。

[案2] 近い将来核データ研究室(センター)が持つべき電子計算機システムの調査報告の作成。

- (a) 他のデータ・センターのコンピュータ・システムの調査。
- (b) データ・センターのコンピュータによる仕事の内容と量を専門別に調査推定すること。
- (c) センターが独立・専用のコンピュータを持つ必要性和そのメリットの分析。計算センターとの関連の分析。
- (d) 最適システムの検討。

(討論)

- 予算要求の資料としたいので、来年4~5月頃までに作成するとよい。  
→予算資料とすることが必ずしも目的ではないが、その考慮も当然含まれてよい。
- この問題をこのW.G.で取りあげるのはおかしくないか。このW.G.だけでやるべきでなく、他にこれに関するW.G.を新たに作って行うべきではないか。  
→このW.G.にcloseして行う必要は勿論ないが、問題はやり方であって、このW.G.でやっても一向におかしくない。  
→hardware に関してこのW.G.は関係が深いわけであり、このW.G.としての調査報告と考えれば、おかしいというようなことはないと思われる。  
→この問題をこのW.G.が委員会全体に提案してはどうか。  
→提案して協力者を募り、このW.G.が中心となって作業を進めるのがよい。

(結論) この案についての意見分布は次の通りである。

提案者となるだけがよい	1
提案し且つ実行を担当する	7
提案せず実行する	2
なにもしない	0
no comment	2

この結果、この案を各専門部会に提案し、他の W.G. からの参加希望者も入れて実行に移ることに決定した。

〔案3〕 GCDN から入手した SCISRS テープを計算に使いよいようなテープに変換するプログラムの作成。

(結論) この問題は SCISRS テープについては単位をそろえるなどの必要があったが、NEUDADA ではその点改善されていて、今の所問題がないので、行い必要がなくなった。

〔その他〕

(1) 特殊なデータ・ファイル、あるいは特殊な inverted file の作成は各専門分野あるいは各 W.G. で必要に応じて行われるべきものと考え、当 W.G. の仕事とは考えない。但し、W.G. として関心を示し場合によっては協力する。

(2) GIANT との関連。

12月19日の合同専門部会における GIANT に関する報告を聞いた後に、当 W.G. としての処置を決める。

(3) 今回は特に更田、五十嵐、金森、中川の4名で議事録を作ることとし、次回の日時、議題は前記4名に一任する。

次回 日時： 昭和45年1月22日(木) 13:30より東海研

議題： W.G. 作業計画の具体案、分担およびタイム・スケジュールの決定